



株式会社 エーアンドエー マテリアル

2023年3月期 決算説明会資料

2023年6月8日

証券コード
5391

1

決算実績・業績予想

2

トピックス

3

長期経営構想「Vision2033」
～サステナビリティ経営に向けて～

1

決算実績・業績予想

1. 2023年3月期連結業績 損益計算書

1



	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (実績)	前期比 (百万円)
売上高	35,923	39,200	+3,277
営業利益	1,440	1,489	+49
経常利益	1,563	1,453	△110
当期純利益	958	931	△27

増減理由

売上高 **+3,277** 百万円

営業利益 **+49** 百万円

経常利益 **△110** 百万円

増加要因	価格改定効果 (1,050百万円)	価格改定効果 (1,050百万円)	
	工事売上の増加 (2,630百万円)	管材事業撤退 (170百万円)	
		コストダウン等 (380百万円)	
減少要因	販売数量減 (△420百万円)	原燃料・仕入価格高騰 (△1,340百万円)	為替差益の減少 (△40百万円)
		販売数量減 (△230百万円)	生産設備の除却損等(△70百万円)

2. 2023年3月期連結業績 貸借対照表

1



- ・再開発をはじめとして大型物件施工による売上債権増加
- ・仕入価格及び工事原価高騰による短期借入金増加

(百万円)

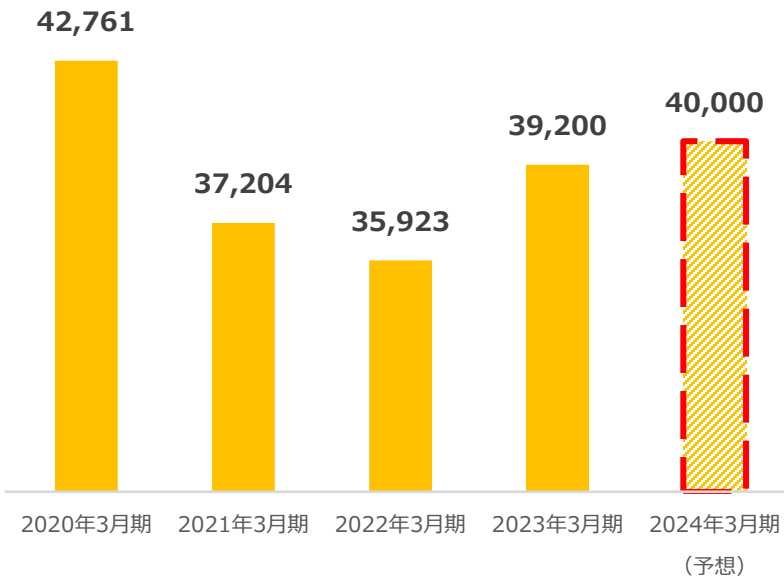
	2022年3月期	2023年3月期	増減
流動資産	17,151	19,006	1,855
売上債権	11,236	12,714	1,478
棚卸資産	2,770	3,190	420
固定資産	19,080	19,173	93
有形固定資産	17,671	17,822	151
総資産	36,231	38,179	1,948
流動負債	13,801	15,327	1,526
仕入債務	4,366	4,813	447
短期借入金	5,891	7,061	1,170
固定負債	6,753	6,350	△403
退職給付に係る負債	3,292	2,628	△664
負債計	20,554	21,677	1,123
純資産	15,677	16,502	825
負債及び純資産	36,231	38,179	1,948
自己資本比率	43.3%	43.2%	△0.1%

大型物件受注による影響

3. 2023年3月期連結業績 推移

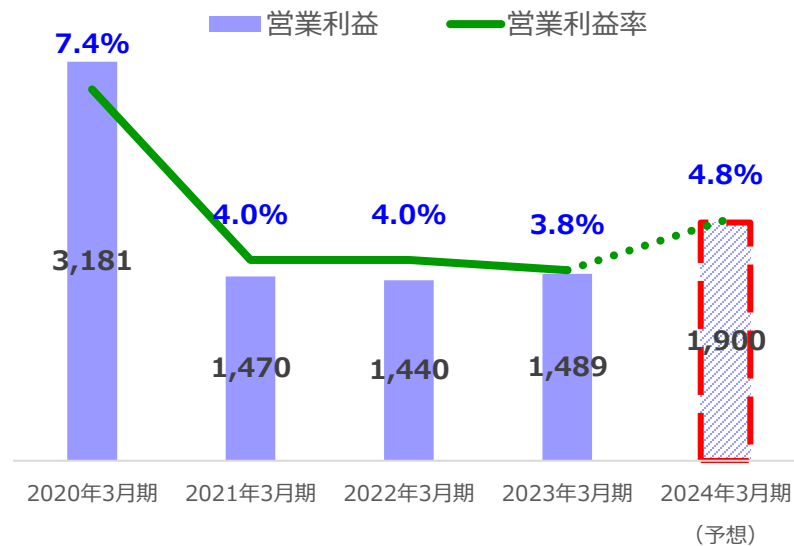
連結売上高 推移

(百万円)

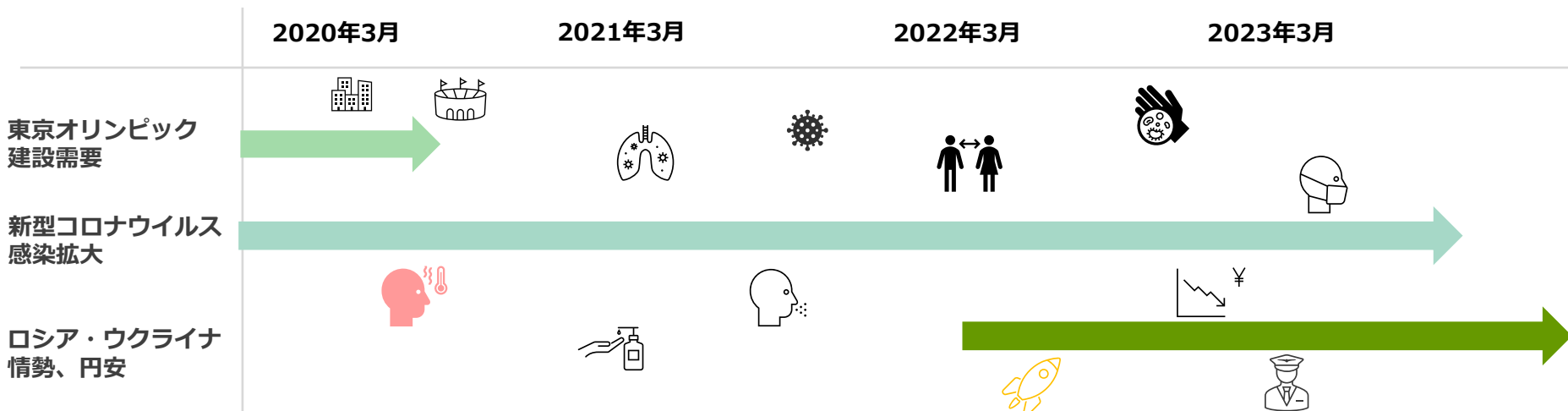


連結営業利益 推移

(百万円)



世の中の移り変わり




















4. 2024年3月期 連結業績予想

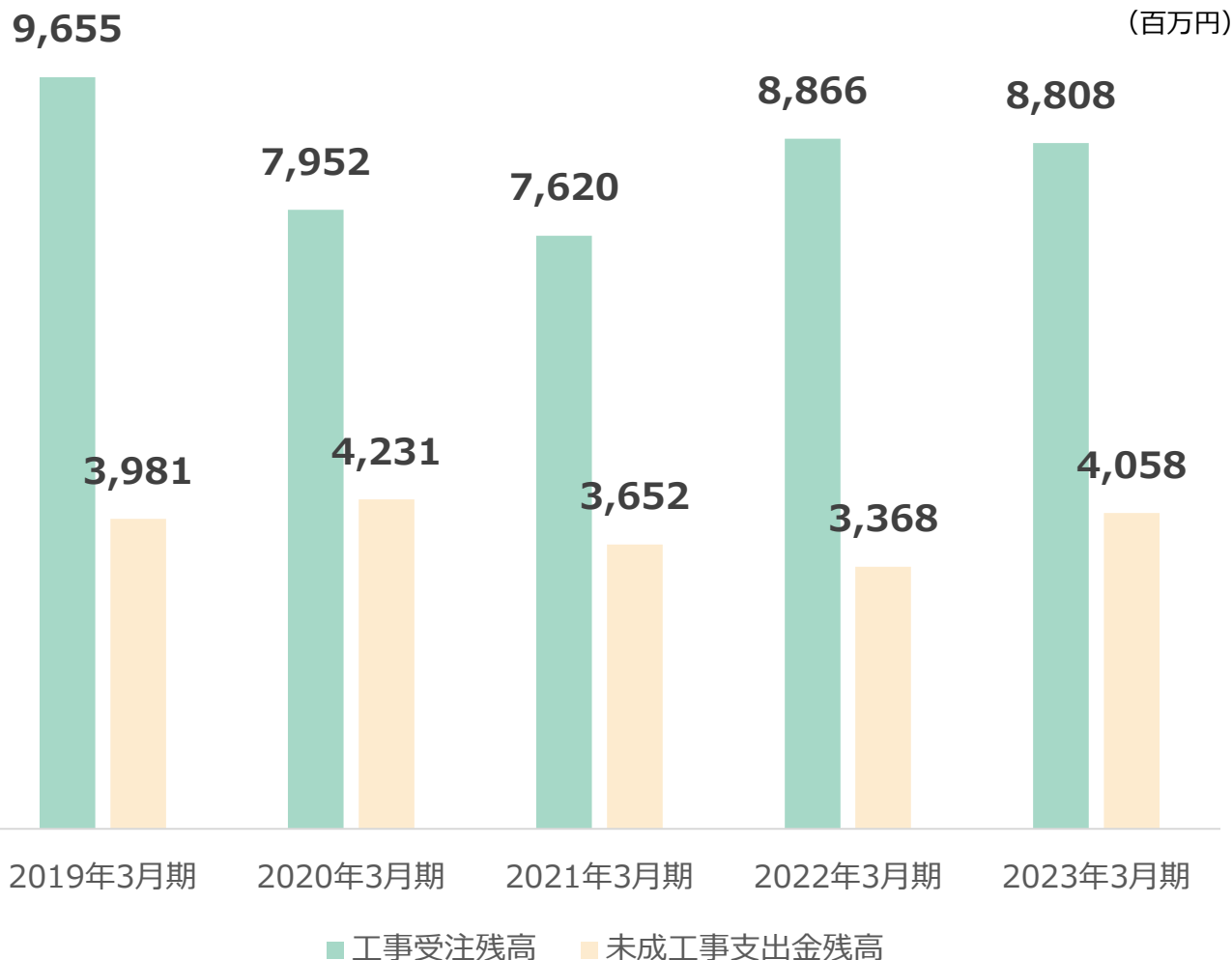
	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)	実績との比較
売上高	39,200	40,000	+800
営業利益	1,489	1,900	+411
経常利益	1,453	1,800	+347

(百万円)

2024年3月期の当社の取巻く環境

環境の動向	建設・建材事業		工業製品・エンジニアリング事業	
	材料販売	工事	材料販売	工事
 製造業の国内回帰				
 物流倉庫の拡充				
 首都圏及び大都市圏の建設需要				
円安 	原燃料・仕入品高騰			
	国内企業の競争力UP			
	インバウンド需要			

工事受注残高及び未成工事支出金残高の推移



工事受注残高

- ・ 新型コロナウイルスより回帰
- ・ 再開発案件・プラント案件・外壁断熱パネル等の大型物件複数受注により増加傾向にある

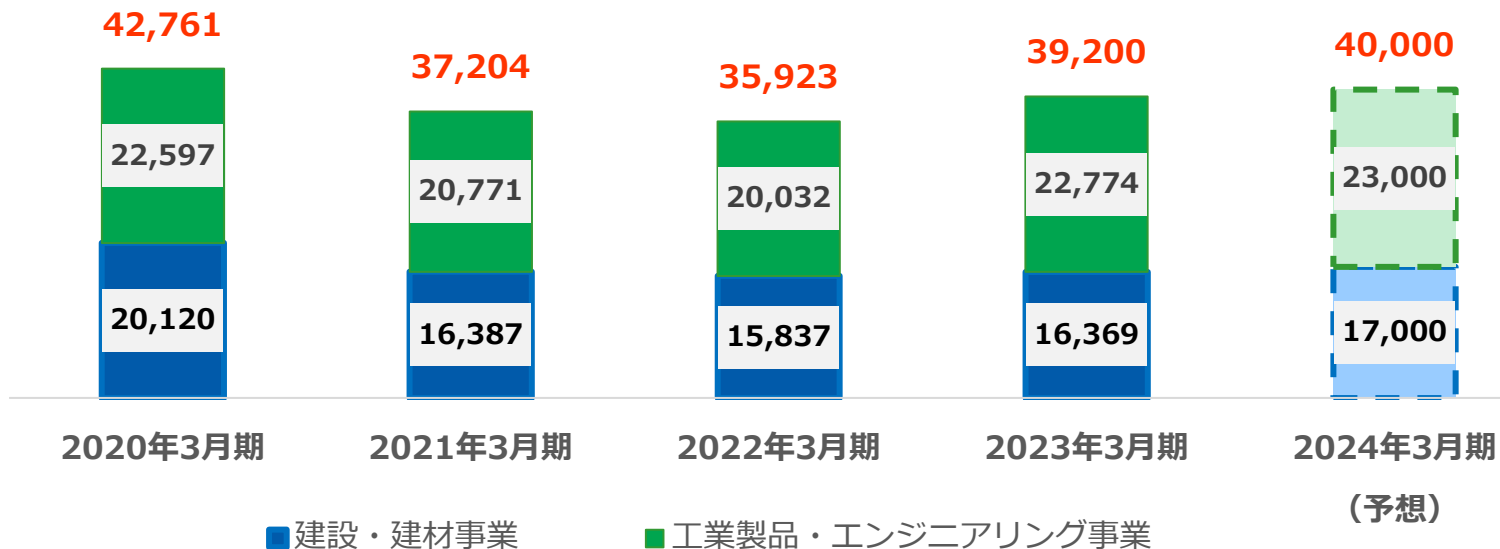
未成工事支出金残高

- ・ 大型物件受注のため増加傾向にある
- ・ 原価高騰による支出金の増加

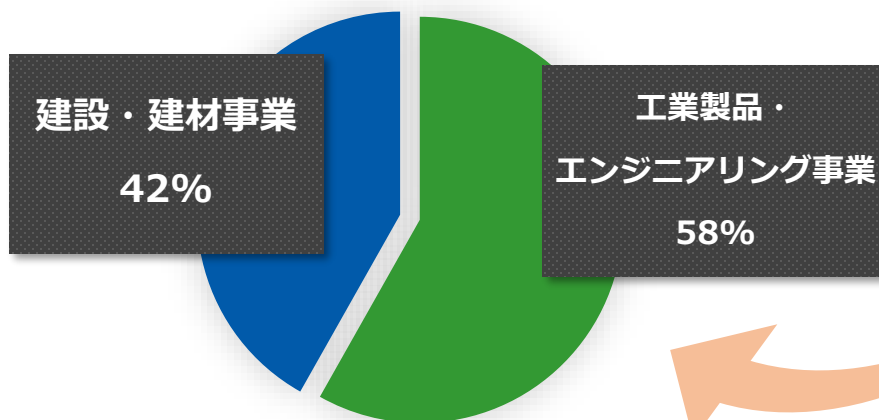
6. 2024年3月期 セグメント別の業績予想

セグメント別売上高 推移

(百万円)



2024年3月期 (予想)



7. 2024年3月期 中期経営計画と業績予想の比較

(百万円)

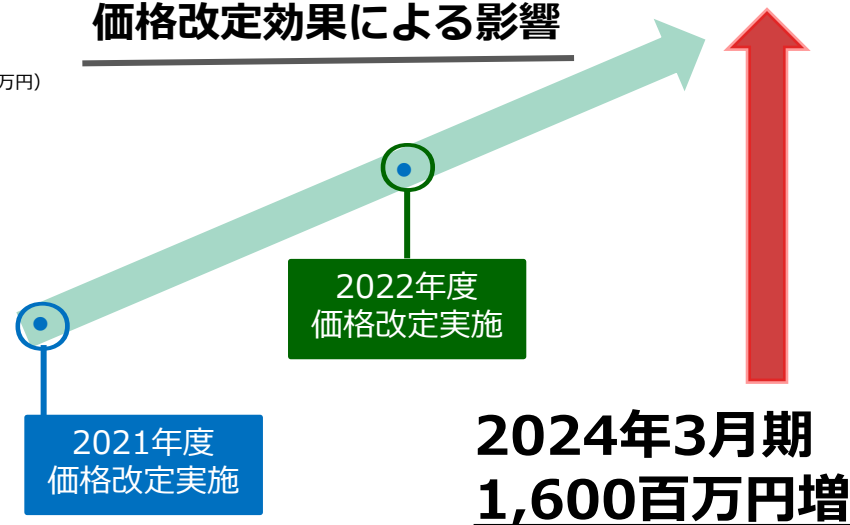
	2024年3月期 (中期経営計画)	2024年3月期 (業績予想)	差異
売上高	43,000	40,000	△3,000
営業利益	3,000	1,900	△1,100
営業利益率	7.0%	4.8%	△3.2%

中期経営計画策定時と業績予想の差異の内訳

要因	売上高	営業利益
価格改定効果	1,600	1,600
原燃料・仕入価格高騰	—	△ 2,000
販管費減少	—	700
数量減、受注減等	△ 4,200	△ 1,430
その他	△400	30
計	△3,000	△1,100

(百万円)

価格改定効果による影響



2

トピックス

耐スクラッチ性能と抗菌・抗ウイルス性能を有する特殊化粧い酸カルシウム板

背景

インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルスなどの感染症防止対策から抗ウイルス関連商品への関心は高くなっている



当社の経営理念の一つである「人にやさしく、地球にやさしい、未来に続く快適な環境を創造します。」のもと、豊かな社会づくりに貢献するべき新製品開発に取り組んだ



人が集まる公共施設や病院・学校をはじめ、医薬・医療機器の各種生産工場やクリーンルーム等の一般内装材として、より清潔で安全な空間づくりに幅広くご使用いただける製品を提供する



スタンド#400MB-Vガード

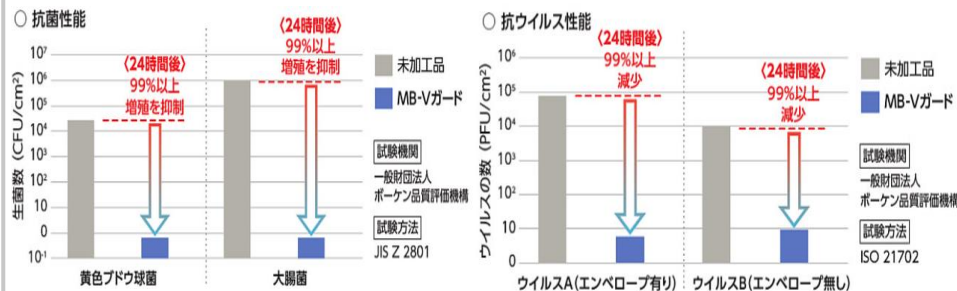
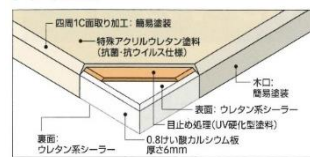
抗菌仕様

抗ウイルス仕様

耐スクラッチ仕様

特定のウイルスの数を減少させる化粧層により、細菌の繁殖を抑え衛生環境を保ちます。

1 ボード断面図



散布型除菌剤の開発

背景

鳥インフルエンザは、感染力が強く、
海外から渡り鳥がウイルスを運んでくる



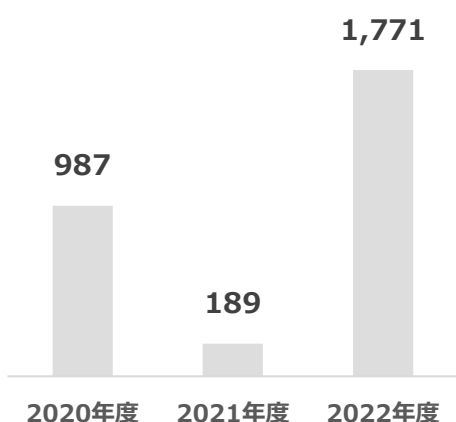
鳥インフルエンザが人に感染した場合は、
急激に全身の臓器が異常な状態となり、
死亡することがある（致死率50%超）



2022年度は過去最多の1,771万羽殺処分があった

鳥インフルエンザ殺処分数

(万羽)



感染リスク

- ① 養鶏場の産業被害
- ② 鶏肉や鶏卵価格の高騰
- ③ 人への感染リスク

ヨドックス粒とは

- ・ 鳥インフルエンザウイルスを**99.9%以上**除去できる
- ・ 人と地球に優しい**天然由来のヨウ素成分**を使用している
- ・ 散布するだけで**2ヶ月程度除菌効果が持続する**



「三段池RAV I HOUSE動物園」

環境配慮型硬質ウレタンフォームを使用したLNG燃料船タンク保冷工法

背景

アスク・サンシンエンジニアリング株式会社は、**断熱事業分野**を**コア技術**とした**専門工事会社**



船舶業界で進められている**排出ガス規制**による**液化天然ガス(LNG-163℃)**燃料転換に基づき**LNG燃料船タンク保冷工法**の開発に着手



主要材料である**硬質ウレタンフォーム**は、**環境に配慮したオゾン層を破壊しない次世代型発泡ガス(HFO)**を業界に先駆けて採用
(高付加価値化)

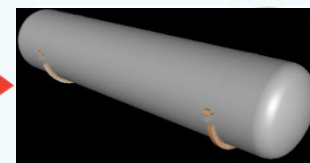
LNG燃料船タンク保冷工法

本タンク保冷工法については、**開発が完了**すると同時に大手造船タンクメーカー殿並びに船主殿よりご承認頂き、**今年度より国内初**を目指して本格的な**工事をスタート**。

なお、第1隻目は2024年春頃竣工予定。



▲ 国内で新造する自動車運搬船にて計画中 (イメージ写真)



▲ 搭載タンクイメージ図 (タンク表面に防熱施工 2基搭載)



大手造船タンクメーカー殿でのLNG燃料タンク保冷工事の状況

本タンク保冷工事の市場規模 数十億円 (年間)

太陽光発電によるCO₂排出削減

2022年
太陽光発電量
860 kWh



CO₂削減量年間
351 t



(株)エーアンドエー茨城に設置してある太陽光発電

ボイラー更新および燃料転換によるCO₂排出削減

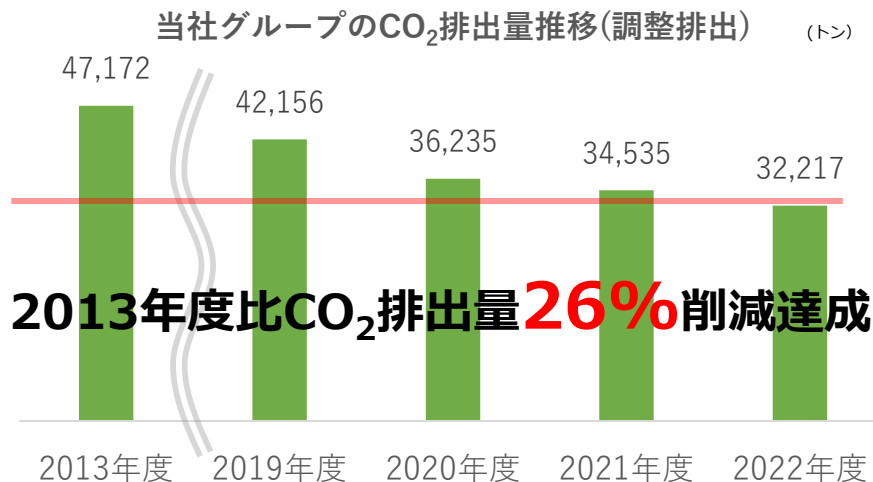
2022年2月に朝日珪酸工業（株）
・ボイラー更新
・燃料転換（重油→LPG）



CO₂削減量年間
844 t

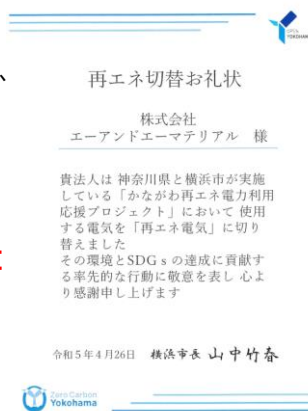


当社グループのCO₂排出量推移



かながわ再エネ電力利用応援プロジェクト

横浜市にある本社ビルは、再エネ由来の電気に契約変更したことで、「**かながわ再エネ電力利用応援プロジェクト**」に参加しております。
このたび横浜市より「**再エネ切替お礼状**」をいただきました。



アスベスト関係

当社に係る訴訟は、全国で23件提訴

最高裁判決	1件
高裁審議中	4件
地裁審議中	18件

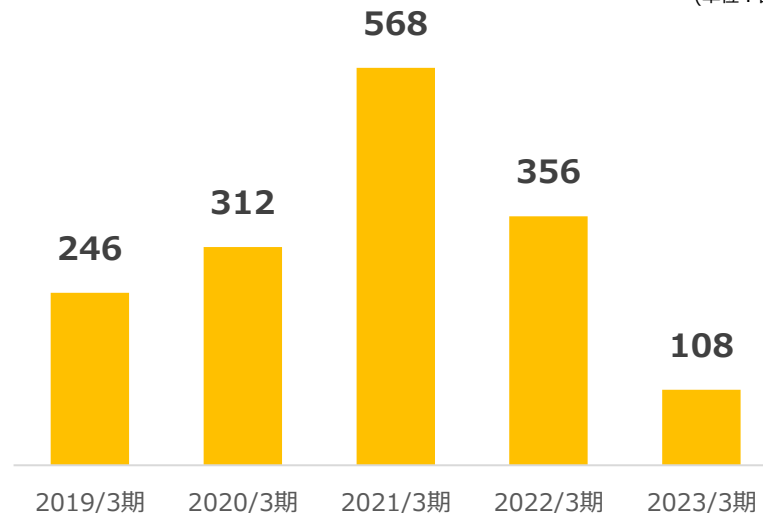
2023年5月1日現在

引当金計上条件

高等裁判所及び最高裁判所の判決内容に基づき、合理的に見積もりをした金額にて計上しております。

引当金期末残高推移

(単位：百万円)



■引当金期末残高

(単位：百万円)

判決及び支払状況

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
件数	—	—	2件	2件	1件
賠償支払金額	—	—	96	198	304

3

長期経営構想「Vision2033」 ～サステナビリティ経営に向けて～



**PBR 1 倍
以上に向けた
取り組み**



**非財務情報
の開示の
充実**



**成長に向け
た未来志向
の事業戦略
(Vision2033)**



**ダイバー
シティ**



DXの推進

2. 策定の背景

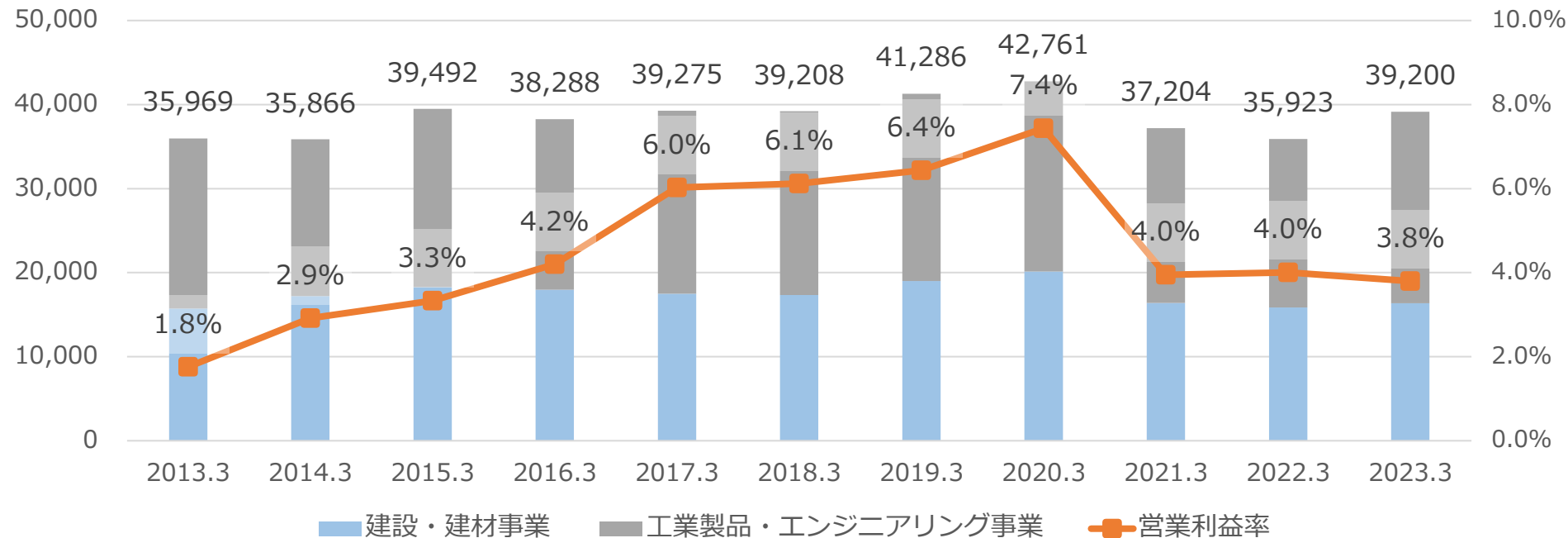
3



(売上高：百万円)

当社グループの売上高と営業利益率の推移

(営業利益率)



着実な歩み
(2013~2020年)

STAGE 1

赤字体質脱却と
収益基盤構築

危機感
(2021~2023年)

STAGE 2

市場の縮小に合わせて小さくまとまるだけでは、淘汰されてしまう危機感

新たな活動へ
(2023年~)

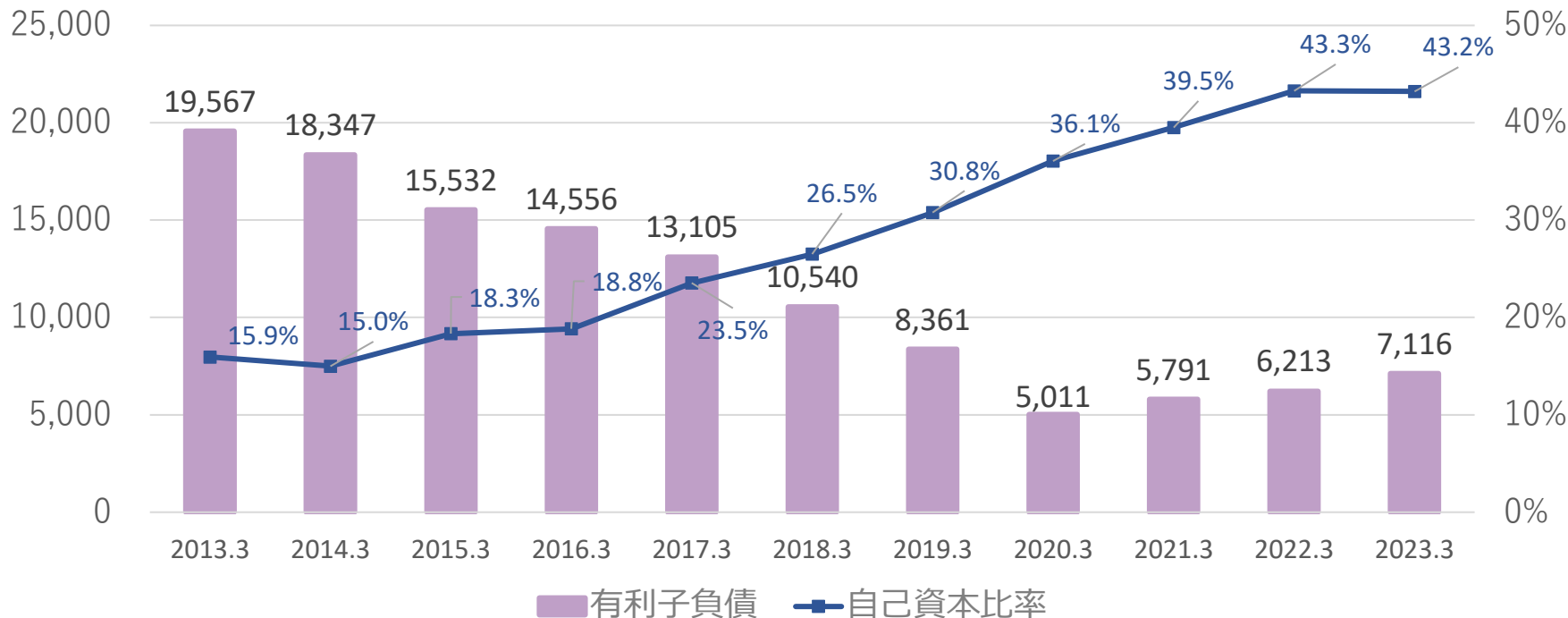
STAGE 3

望むビジョンに向かって組織の力を結集し、新たな活動へと踏み出す決意

当社グループの有利子負債と自己資本比率の推移

(有利子負債：百万円)

(自己資本比率)



緊縮型

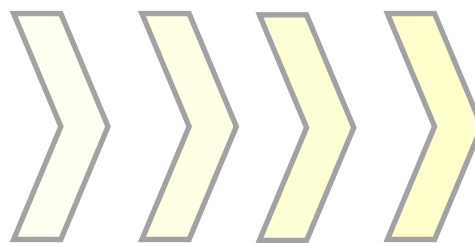
～2023年3月

財務健全化を重視

積極型

2023年4月～

事業の拡大と企業価値の向上を目指す



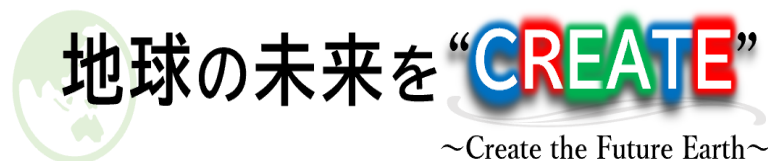
方針転換

キーワードは「CREATE」＝創造です。

グループの機能を最大限に活用して、お客さまと共に製品・サービスを創造し、提供していくビジネスモデルの展開を目指します。

10年後のありたい姿

Vision2033



これまで私たちエーアンドエーマテリアルグループは、熱をコントロールする技術で安全・安心・快適な社会づくりに貢献してきました。

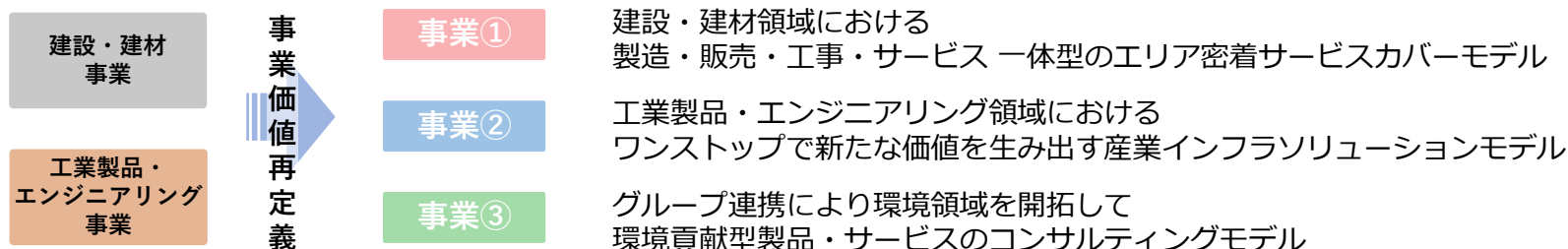
次の10年は、新たな事業領域への「挑戦」とグループ力の結集による「成長と変革」で、“心躍る価値”を提供する企業へと生まれ変わり、持続可能な地球の未来を「創造」していきます。

- C**ollaboration(協働) … 既存概念に捉われず、あらゆるステークホルダーとの協働を図ります。
- R**esolution(解決) … “熱をコントロールする技術”を駆使し、様々な社会的問題を解決します。
- E**nvironment(環境配慮) … さらに環境に配慮した経営を行い、持続可能な社会に貢献します。
- A**ssociation(連携) … 部門、組織を超えた連携によるワンストップなビジネスモデルを展開します。
- T**ransformation(変革) … DX(デジタル)、CX(コネクテッド)、現状に捉われない未来志向型企業に変革します。
- E**volution(進化) … そして、誰もが“心躍らせ”ワクワクする企業へと進化します。

小さな一歩でも、より良い地球の未来につながる方向を目指して活動する。

基本方針

1 「事業価値」の再定義による3つのドメイン展開



新たな事業価値の定義に基づく組織再編と事業展開を企画・推進し、当社グループ間のシナジーを生み出すビジネスモデルの確立を目指します。

2 ビジネスモデル発想による新価値創造

売上総利益率30%を目指し、以下の施策を展開します。

- 1 事業のサービス化
- 2 ワンストップサービスモデルへの変革
- 3 環境領域の事業化

基本方針

3 持続的成長を実現するM&A戦略

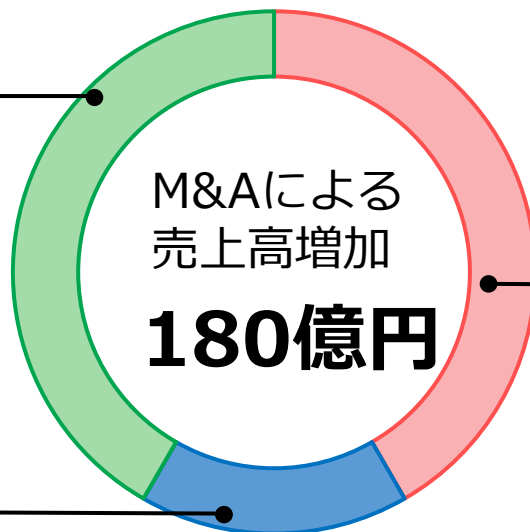
2033年度における**M&Aによる売上高増加180億円**を目標に積極投資を実行します。
M&A実施目標 5件以上 買収投資額 100～150億円を想定。

新規事業

75億円
(42%)

30億円
(16%)

工業製品・エンジニアリング事業



75億円
(42%)

建設・建材事業

4 新製品・新事業を創造する研究開発機能の進化

新技術・新製品開発の加速に向け、オープンイノベーションによる外部リソースの積極活用を進めると共に、これに応じられる自社体制の変革による進化を実現します。

基本方針

5 私たちらしいスマートファクトリーの具現化

グループ内の各工場においてスマートファクトリー化を進めます。

- 1 ワークスマートファクトリー（社員の働き方の変革）
- 2 プロセススマートファクトリー（生産工程の変革）
- 3 バリュースmartファクトリー（提供価値の変革）

6 新たなグループ経営モデルの確立

新たなかたちのグループ経営モデルを模索し、グループ利益の最適化を目指します。

- 1 CXO経営モデルの検討
- 2 グループ横断型プロジェクトの企画・推進
- 3 ポートフォリオ経営を実現するKPIマネジメントの推進

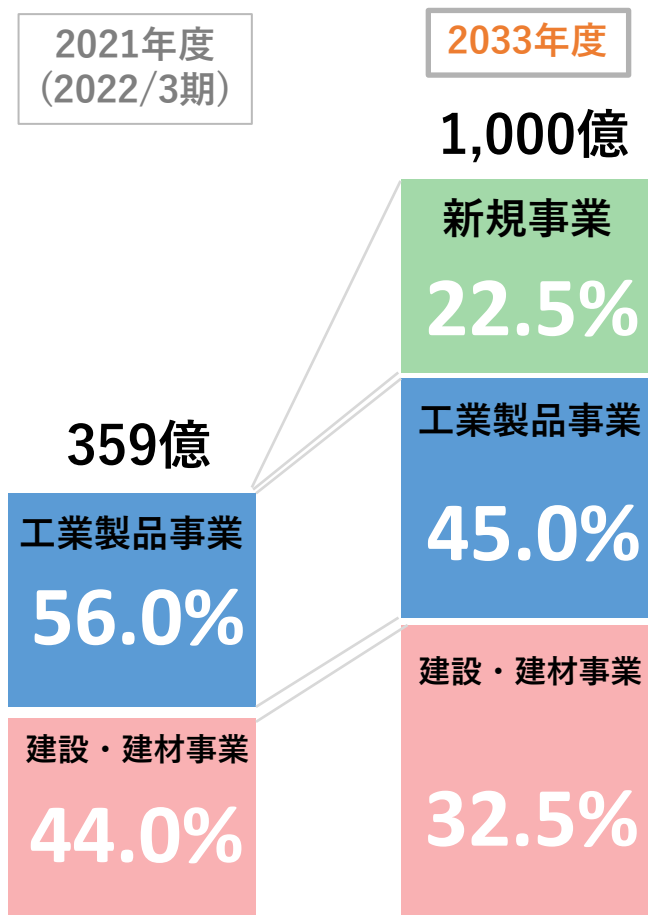
7 Vision推進型プラットフォーム（人的資本経営）

次世代経営リーダーを育成・輩出するグループシステムの構築

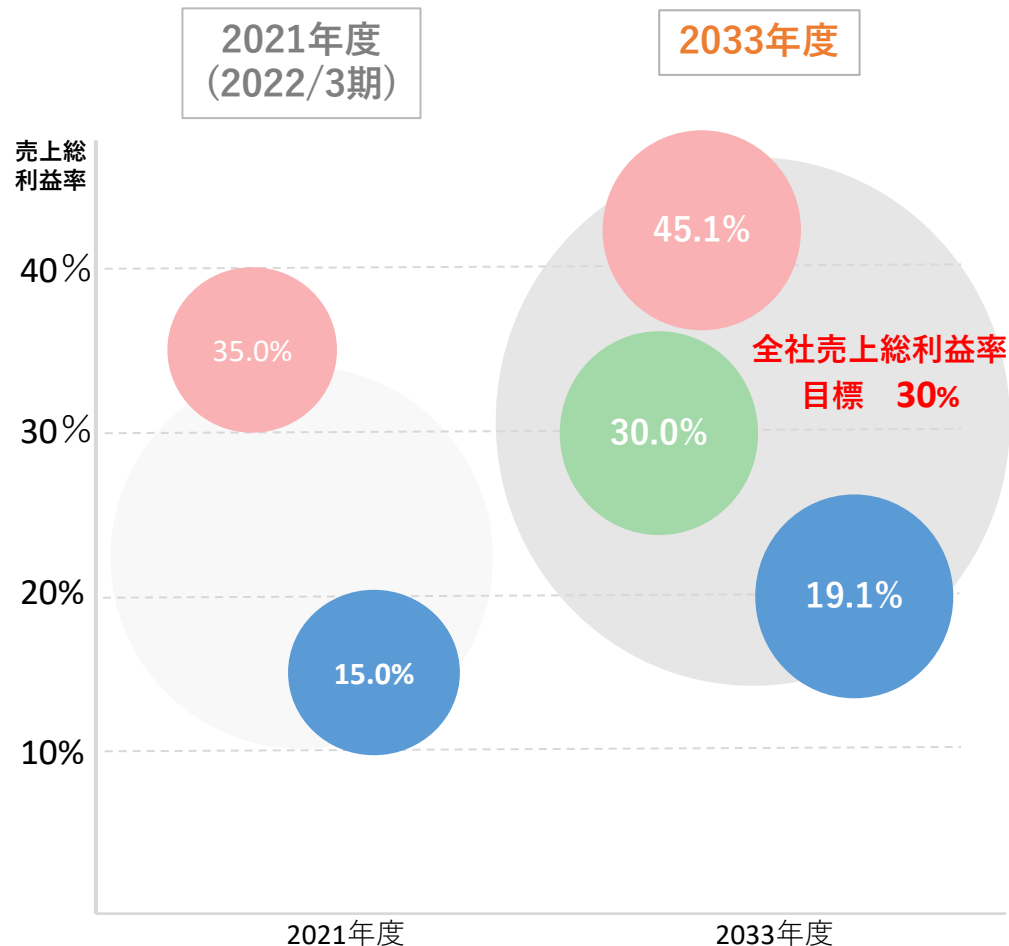
3. 長期経営構想「Vision2033」について

2033年度には、3つのドメイン展開と新たなビジネスモデルの構築により、**売上高1,000億円、売上総利益率30%**の実現を目指します。

ドメイン別売上高構成推移



ドメイン別売上総利益率ポートフォリオ



3. 長期経営構想「Vision2033」について

次期中期経営計画（2024年度～2026年度）を1st Stage「**挑戦と変革**」と位置づけ、2nd Stage「**成長**」、3rd Stage「**創造**」として、実現に向け取り組みます。

Vision2033：地球の未来を“CREATE”～Create the Future Earth～

1st Stage：挑戦と変革
(2024年度-2026年度)

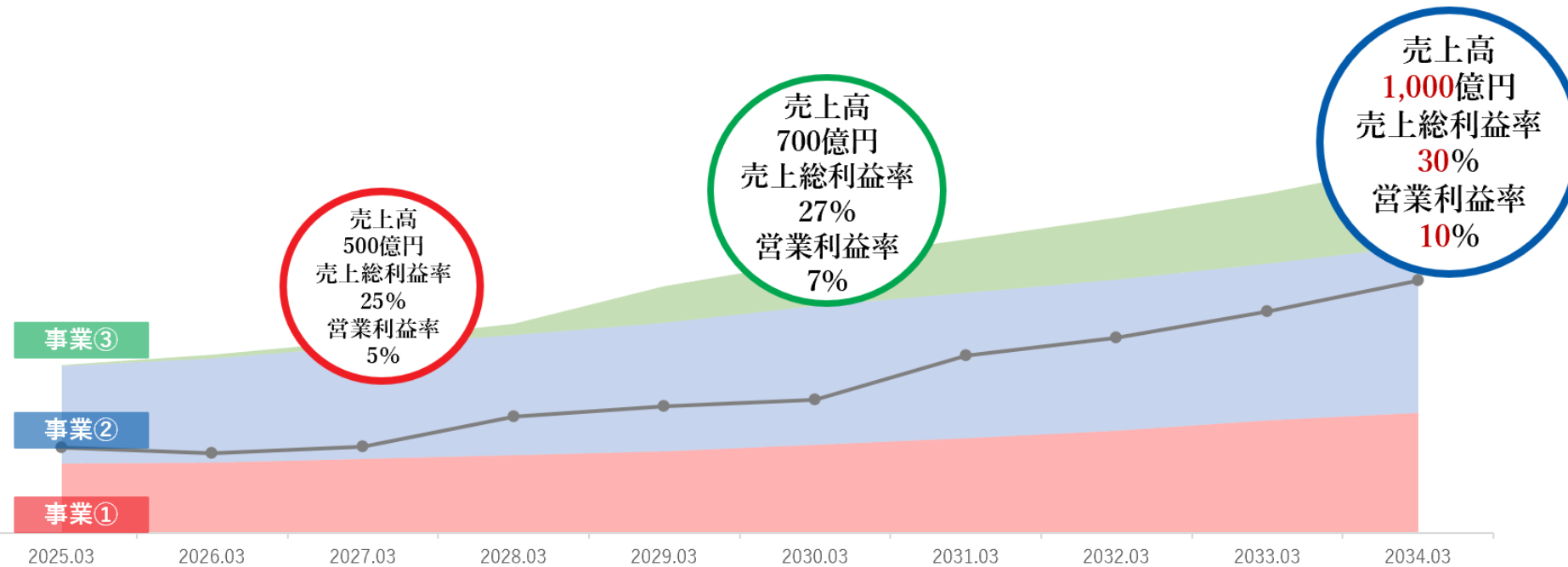
2nd Stage：成長
(2027年度-2029年度)

3rd Stage：創造
(2030年度-2033年度)

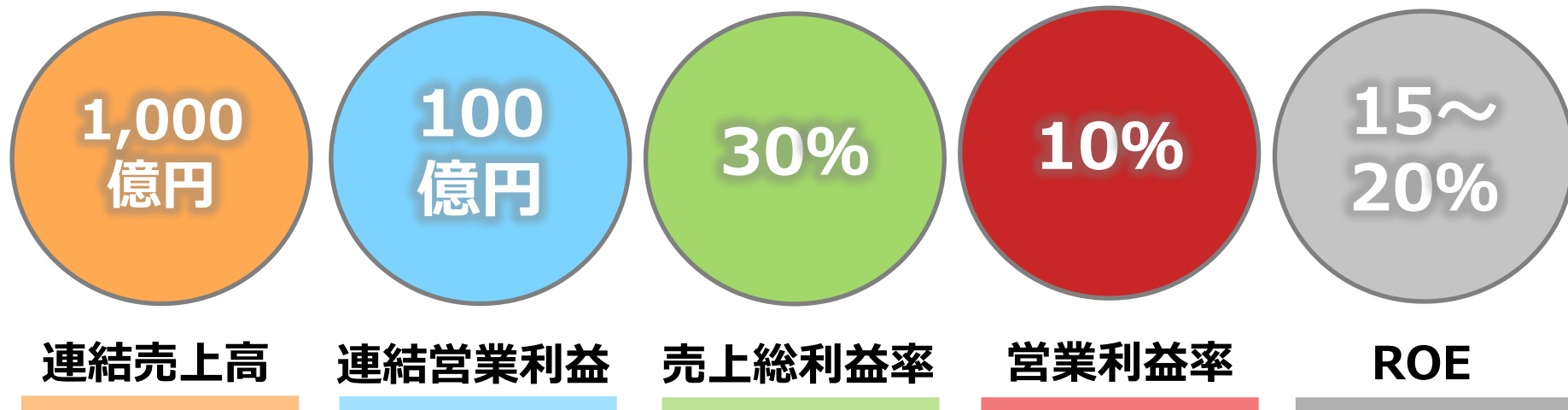
環境事業への**挑戦**と
事業のサービス化への**変革**

M&A・研究開発・事業領域拡大による
グローバル&グループ価値経営
での**成長**

3ドメイン×ワンストップソリューションで
地球の未来に貢献する
新たな事業ブランド価値を**創造**



2033年度の目指す業績イメージ



これまで私たちエーアンドエーマテリアルグループは、熱をコントロールする技術で安全・安心・快適な社会づくりに貢献してきました。

これからの10年は、新たな事業領域への「**挑戦**」とグループ力の結集による「**成長と変革**」で、“心躍る価値”を提供する企業へと生まれ変わり、持続可能な地球の未来を「**創造**」していきます。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、株式会社エーアンドエーマテリアルが現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

なお、異なる結果となった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

株式会社エーアンドエーマテリアル
総務部総務広報グループ

〒230-8511 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目5番5号
TEL:045-503-5760
H P:<https://www.aa-material.co.jp>